

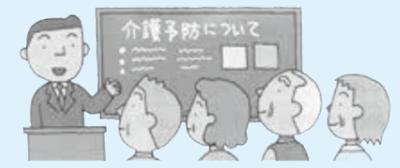
社協の介護予防講座 第4回

社協の介護予防講座 第4回

社協の介護予防講座 第4回

介護予防のために様々な情報を提供し、皆さんの元気な暮らしをサポートいたします。

知って おきたい！ 認知症①



認知症とはどんな病気ですか？

ごはんを食べたことを覚えていない、自分のいる場所がどこなのかわからな

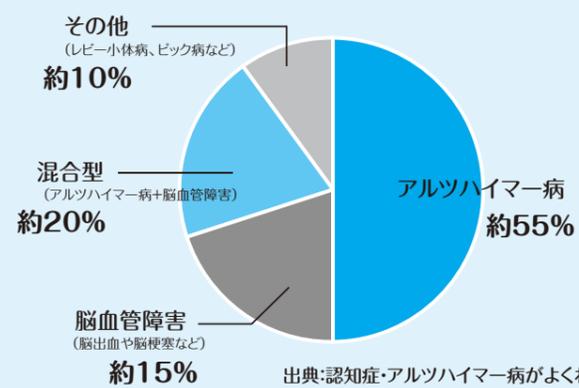


い……ふつうの人なら当たり前にはわかつていることがわからなくなる状態を認知症といいます。認識した

り、記憶したり、判断したりする力が障害を受け、社会生活に支障をきたす状態のことです。

認知症という言葉自体は病名ではなく、特有の症状を示す状態を総称する言葉と考えてください。認知症を引き起こす病気は、細かく分類すれば実はたくさんあります。ただし、圧倒的に多いのは、アルツハイマー病と脳血管

認知症の原因疾患の割合(推定値)



障害の二つで、この両者が混合している場合もあります。ほかに、レビー小体病(脳の神経細胞に異常なたんぱく質が蓄積する病気)、ピック病(脳の前頭葉と側頭葉に強い萎縮がみられる病気)なども、認知症の原因となります。

認知症の人はどれくらいいるのですか？

認知症は高齢になればなるほど、発症の危険が高まります。認知症は特別な人に起こる特別な出来事ではなく、歳をとれば誰にでも起こりうる、身近な病気と考えたほうがいいでしょう。



現在、国内の認知症人口は約205万人に上るといわれており、2015

年には300万人を超えるといわれています。65歳以上の男性の55%、女性の66%がいずれ認知症になるのではないかと推測されています。

一方、65歳未満で認知症を発症する場合もあります。なかでも気をつけた

いのは「若年性アルツハイマー病」。65歳未満で発症したアルツハイマー病のことを指す言葉で、現在全国に約10万人いるといわれています。40代、50代の働き盛りで起こることもあり、老年性のもより進行が早く、症状も重くなる傾向があります。

老化と認知症は どう見分けるのですか？

人間は誰でも、歳をとると体力が落ちていきます。それと同じように、人



間の知的能力は、40歳から50歳あたりをピークに徐々に下降線をたどるようになり、歳をとることによって新しいことが覚えにくくなったり、うっ

かり物忘れをしたりするようになるのは、多かれ少なかれ誰にでも起こることです。しかし、認知症は脳の機能の病的な障害によって起こる体の病気。自然な老化現象とははっきりと違つたのです。

例えば、ふつう私たちは、朝食に何を食べたかを忘れてしまっても、朝食を食べたこと自体を忘れることはありません。しかし、認知症の場合は「食べた」という体験自体がまるごと記憶から抜け落ちてしまいます。初期のうちはそのうした物忘れを自覚して不安になる人もいますが、症状が進むにつれて、忘れたことに対する自覚がなくなり、「まだ食べていない」「食べさせてくださいね」などと言いつけるようになるのも特徴です。

認知症は高齢者だけの病気ですか？

アルツハイマー病は、一般的に65歳以上の高齢者に多く見られる病気ですが、それよりも若い年齢でも発症することがあります。これを「若年性アル

ツハイマー病」と呼びます。

初期症状は頭痛、めまい、不安感や不眠など。うつ病に似た症状のため、本人も周りの人も気づきにくいのが特徴です。しかし、老年性ものに比べて病気の進行が早く、症状も重くなる傾向があります。仕事のミスが続く、当たり前の家事ができなくなる、といった兆候に周囲の人が早く気づくことが大切です。

若年性アルツハイマー病の患者は、現在日本に10万人程度いるといわれています。40代から50代という働き盛りの世代で発症することもあり、経済的な問題や介護など、さまざまな問題を抱えることになるので、周りの人の理解と協力が不可欠です。通常は65歳以上が対象の介護保険ですが、いくつかの条件に該当すれば、若年性アルツハイマー病に悩む人にも適用されます。

同じように、脳血管障害が原因で起こる認知症も、65歳未満で発症するケースがあるので注意が必要です。

認知症フォーラムドットコム 検索